

令和4年度東京データプラットフォーム協議会
第2回エリア連携WG

令和5年2月17日（金曜日）
11時25分～11時50分
場所：Zoom（オンライン会議）

アジェンダ

1. エリア連携WGの概要
2. 施策アイデア創出のワークショップ
3. ユースケースイメージの整理
4. 接続・運用で想定される課題
5. 来年度以降の活動に関するお知らせ

議事概要

1. エリア連携の構想と本WGでの討議内容

(1) TDPFが目指すエリア連携

東京都を中心として各エリア間、その他接続するプラットフォームのハブとなり、データ相互利活用を実現し、新たな価値の創出を促す。具体的には、エリア同士の施策連携・高度化や、各エリア及びその他分野別基盤のデータを融合した広域施策の実現を、エリア連携によって図っていく予定

(2) エリア連携WG全体計画

来年度以降、基盤構築、データ整備事業など、本格的に事業を開始する計画。

連携施策、接続、ポリシーの3つの軸で検討中

ア 連携施策はユースケースのイメージと取組の行動計画策定から開始し、具体的なユースケースの考案と試験的接続を用いた実証、実際の連携基盤上における実現のステップを想定

イ TDPFを介したエリア間の接続は、接続に向けた課題の明確化とロードマップの策定から開始し、具体的な接続仕様の決定と技術実証、一部都市OS等との連携運用の開始のステップを想定

ウ ポリシーは、連携においては運用上どのような課題が存在するのかを明確化することから開始し、課題に対するポリシーの仮策定とユースケースを題材にした検証、ポリシーの本策定と運用の開始のステップを想定

(3) 今年度のWG活動

ア WG1回目は、TDPFが考えるエリア連携の構想や、WGにおいてどのような

議論を今後行っていくかを説明。この説明に対して、実際にスマートシティ事業に取り組んでいるエリアの方から、現在の取組状況を踏まえたエリア連携の将来イメージと期待感を共有及び、意見交換を実施

- イ ワークショップでは、エリアの施策立案に係わる担当者等を中心に、エリア連携で可能となる施策と新たな価値についてアイデア出しを実施
- ウ WG2 回目では、ワークショップで出てきたアイデアをヒントに、TDPF 事務局にてユースケースイメージを整理

2. 施策アイデア創出のワークショップ

(1) ワークショップ実施概要

施策アイデア創出のワークショップ実施までの流れは、以下のように、事前準備・個人ワーク・ワークショップの3ステップ

- ア 事前準備では、ワークショップで使用するデータを準備。エリアデータは、大丸有・豊洲・日本橋・竹芝を準備。TDPF 流通基盤のデータは、ケーススタディ事業を通して使用したデータ、オープンデータを準備。産業データは、9つの分野を選定し準備
- イ 個人ワークでは、事前に準備したデータを基に、データの繋がりからユースケースアイデアを発想
- ウ ワークショップでは、事前に発想したアイデアの深堀、ディスカッションを通じて、新たな視点でのアイデアを創出

(2) ユースケース 実施結果

グループ①・②に分けワークショップを実施。エリア間の回遊性を向上させる施策、また防災・エネルギーに関してディスカッションを実施

グループ①では、防災・ゴミ・観光分野のアイデアを抜粋

- ア 防災分野では、住んでいる場所によって、帰宅する際に複数のエリアを跨ぐことが起こりうる。災害時に、帰宅ルートを選定するには、エリア間での情報共有は必要であるという意見を受け、帰宅困難者に関する取組の情報を共有できないかというアイデアを創出
- イ ゴミ分野では、循環型社会を目指す一方で、ゴミ分別の負荷が高くなっているのではないかという意見を受け、オフィスビルでのゴミ分別自動化によってコストを削減するアイデアを創出
- ウ 観光分野では、お出かけした際や旅行に行った際に、商業施設の情報や、ベンチ・トイレの位置情報を入手したいという意見を受け、地域プロファイリングデータを活用して、知りたい情報・使いたいサービスを使用できる状況やリコメンド機能を付与したサービスを作るアイデアを創出

グループ②では、省エネ・観光分野のアイデアを抜粋

- ア 省エネ分野では、東京都として、省エネに関する活動を重要視しているが、実際の都民の視点で考えた時に、省エネに対する意識はあまり高くない現状がある意見を受け、省エネの活動に対し、個人の意識を向上させるためにデータを活用するアイデアを創出
- イ 観光分野では、小さい子供がいつご家庭や、どこに出かけるか迷っている人に向けて、個人にあったお出かけプランのリコメンドをするアイデア、また、デジタルサイネージ、混雑情報を活用して、回遊性の向上、インバウンド需要へ対応するアイデアを創出

3. ユースケースイメージ整理

(1) TDPF とエリアを連携させた世界 (1/2)

TDPF がエリア連携で目指す世界観に関して、以下のように整理

- ア 東京都内にある、さまざまな産業分野のデータに対して、TDPF がデータ流通のインフラとなることで、エリアの枠組みを超えて、社会課題の解決・新規サービスの創出を推進
- イ データの流通・施策を通じて、新たなデータを生み出し、データ活用、サービスの改良・拡充のサイクルを推進

(2) TDPF とエリアを連携させた世界 (2/2)

エリアと TDPF の連携に関して、現状踏まえたステージを以下の3つに整理

- ア エリア毎に施策の検討を行い、必要なデータを取得。それぞれのエリアで課題が異なるため、基本的には、エリアで完結するサービスを提供しており、集客はエリア毎に実施
- イ TDPF に集約されたデータのうち、エリア毎の特徴・課題に合わせて、データを提供し、各エリアにおける施策を推進
- ウ ユースケースに応じて、エリアのデータを集約させ、集約された様々なデータを、TDPF を通じて各エリアに流通させ、エリア同士の連携施策を推進、エリアを跨いだ価値・サービス体験の提供

(3) ユースケースイメージ整理 (1/2)

TDPF が流通基盤となって、データをエリア・サービサーに流通させ、エリア内・エリア連携の施策を推進していくユースケースイメージとして、休日の過ごし方リコメンドアプリを活用したケースを整理

- ア データ提供者は、東京都内の区市町村、民間施設、各エリアを想定
- イ TDPF に集約させるデータは、エリア間で流通させる必要のあるデータ、例えば、イベント開催状況や混雑状況等のデータを想定
- ウ イベント情報・個人の趣味・行動履歴から休日の過ごし方をリコメンドするこ

とにより、各エリアに訪れる都民・観光客の全体数の底上げを推進

- エ エリア連携の施策を通じて、都民・観光客に、エリアを跨いだ新たな価値・顧客体験を提供。ここでは、個人の特性や移動したエリアログを基に、個人にあった体験リコメンドを想定。エリア間の回遊を促進し、各エリアに訪れる人の数を増加

(4) ユースケースイメージ整理 (2/2)

情報を見える化し、東京都の抱える課題の解決につなげていくユースケースイメージを以下2つ整理

- ア 一つ目はエネルギー問題に対するデータ活用。各エリアにおける電力使用量の見える化を行い、エリア内・エリア同士の電力使用量を比較し、省エネに貢献しているビル・エリアに対するリワードを発行する等で、協創できる競走の仕組みを構築。省エネ効果を推進
- イ 二つ目は災害時でのデータ活用。帰宅経路、電力供給ライン、食料備蓄量、人流データ等を共有し、速やかな避難経路の確保、必要物資の適切量配布、避難所での受け入れ人数の調整、他の避難所への誘導など、災害時に迅速に対応できる街を構築

4. 接続・運用で想定される課題

エリア連携における、都市 OS と TDPF の接続、その後の運用に関しての論点を以下に整理。データ利用者のユースケースを理解した上で、データ提供者と TDPF の役割・ポリシーを明確にすることが必要

- ア 論点の一つ目として、TDPF 側でデータをいつまで保持するのか、が挙げられる。データ利用者の要望として、リコメンドアプリを開発する上で、リアルタイムデータだけでなく、過去データを活用して、機械学習等による混雑ポテンシャルの計算精度を向上させるケースを考慮
- イ 論点の二つ目として、データの時間間隔、フォーマットが異なる場合、どのように対応するのか、が挙げられる。エリアを跨いだサービスをリコメンドするアプリを開発するにあたり、エリア毎のデータを並べて傾向分析する必要があるが、データの時間間隔・フォーマットが異なることで、データ利用者の負荷が高くなるため、データの加工が必要になる。データ提供者・TDPF・データ利用者のどこがどの程度負担を負うのか、議論が必要

5. 来年度以降の活動に関するお知らせ

(1) 来年度以降の活動に関するお知らせ

以下の活動を加味し、来年度 TDPF 稼働実現に向けて準備を遂行

- ア ユースケースの実証に向けた具体化として、小規模で実証できるユースケースの検討、エリア間の競争と協創を両立させる施策の検討が必要と思慮
- イ 都市 OS と TDPF の接続に向けた準備として、データ提供者である都市 OS と TDPF の役割・ポリシーに関する課題の明確化、アドバイザー制度・データ整備事業と連携して、TDPF としての対応方針を決めていく必要があると思慮

以上